

二宮町の次世代を担う子どもたちへ

～戦後 80 周年・町制施行 90 周年～

私はこれまで小中学生からたくさんのお手紙をいただきました。そのほとんどが、「親が生きていることがどんなにありがたいことかよくわかった。」「今が平和でよかった。」「戦争中に生まれなくて幸せだった。」という内容です。

平和はごく当たり前のことであり、永遠に続くように思いがちです。でも平和はもろいものであることを、わたしたち世代は身をもって知らされました。戦争はたしかにあったのです。たくさんの男の人が召集令状一枚で戦場におもむき、戦死、戦病死、または餓死。日本の空は、連日どこかの都市にアメリカ軍機が飛来し、多くの非戦闘員が空襲をうけて死にました。

人が死ぬということはどんなに苦しみや悲しみを生むものか。生きるということとはどんなに素晴らしいことか。戦争のために生をまっとうできなかった人たちのためにも、若い命を大切にしていきたい。

今の子どもたちは少し幼いように見えるかもしれないけど、それはそれでいいと思うんです。しなくてもいい苦労はしない方がいい。それに今の若者には昔と違う感覚の優しさがあって、それに繊細で敏感で、向き合って話していると、とても楽しい気持ちにさせてくれます。目的や内容は同じでも、昔と今では表現が違いますね。

平和とは、人が自分の命と同じように、他の人の命も大事にする心をもつことだと思います。他の人を思いやる心。それはやがて、他の国の人びとを思いやる心に

発展するはずです。

いまや日本の人口のほとんどは戦争を知らない世代。わたしたち戦時中を生き残らせてもらった世代は、ここでしっかりと次代を担う子どもたちに、戦争の無残さ、おろかさを伝えていく責任があると思います。

戦後 80 周年を迎え、恐ろしいのは、戦争のおごさ、悲しみが忘れ去られることです。かつて戦争によって人々の人生が大きく変わりました。何の罪もない普通の人の人生が変わってしまったのです。それが戦争なのです。

この時期、全国ではさまざまな平和事業が行われます。二宮町も町制施行 90 周年を迎えますが、この「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」は、これからもずっと続けてほしいと思います。

戦争体験を語り継いだり、平和の尊さについて考えたりするのに、やりすぎるということとは決してないのですから。

戦争を起こそうとするのは、人の心です。

戦争を起こさせないようにするのも、人の心です。

戦争を起こさせないという心の輪を強く固く結んで、被爆国日本、戦災で大地を焼かれた日本から世界中の人々に呼びかけていきましょう。たくさんの犠牲者のためにも。

次世代を担う子どもたちの未来のためにも。

令和 7 年 8 月 5 日

高木 敏子